

平成25年度 第12回野外講座



雪入山の植物観察



関戸瓦窯址について研修

テーマ：恋瀬川源流の植物と雪入ふれあいの里

場 所：かすみがうら市雪入

実施日：平成26年3月12日（水曜日）

参加人数 33名

内容

恋瀬川源流部の雪入山麓を歩きました。落葉樹はすっかり葉を落とし冬芽をつけています。ニワトコは冬眠から覚めて葉をひろげ始めています。

今回の観察会の目玉は、ヤブコウジ科のイズセンリョウです。関東南部以西に分布し、県内では仏頂山・加波山・吾国山・難台山などに生育しており県の準絶滅危惧種に指定されています。常緑樹林の比較的水分の多い沢筋などに生えますが雪入山ではスギ林下のアオキやヒサカキが生育する斜面で見ることができました。付近にはナガバジャノヒゲ・ウチワゴケ・イヌガヤ・キミノマンリョウなども見られました。沢に沿って約1kmほど藪こぎをしたところに3×3mの範囲に群生しています。白い実をつけて見応えのある植物です。参加者の皆さんは息を切らしながらも頑張ってたどり着き感動していました。

「足で稼ぐ」を実践していただきました。

道沿いにオシダ科のオオカナワラビが1株ありました。関東以西に分布し、県内では北茨城市・常陸太田市・石岡市・かすみがうら市など暖帯の林に生育しており、県の絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。「なんか変な形のシダがある」パートナーさんの一声で皆さん貴重な植物に出会うことができました。

コナラ・シラカシの殻斗とドングリを資料を見ながら観察しました。普段何気なく見ていたものでもよく見るとそれぞれの特徴があることに気付かされました。

ヨゴレネコノメのようなものがありましたが、「この地域のものはずべてニッコウネコノメにしています」とは参加された方の見解でした。花の時期に確認したいものです。

この時期は林床に常緑のシダ植物が目につきます。アスカイノデ・アイアスカイノデ・ドウリョウイノデなどイノデの仲間、ベニシダ・ベニオオイタチシダ・イノモトソウ・セフリイノモトソウ・オオバノイノモトソウ・オオハナワラビ・オクマワラビ・ヤブソテツの仲間・フモトシダ・リョウメンシダ・イワガネソウ・イワガネゼンマイなどです。皆さんシダ植物はみな同じに見えるとはいいながら興味深そうに観察していました。

サカキ・イタビカズラ・イヌガヤ・シロダモなど暖かい地域に生育する植物も見られました。

恋瀬川源流部の沢は、雪入川・天の川・恋瀬川を経て霞ヶ浦に注いでいます。水量は多くはないのですが流域の多様な植物が霞ヶ浦の水を育んでいることを裏付ける場所です。霞ヶ浦の水質浄化を考える観察会の意義についても皆さん納得しました。

今回の観察会では89種類の植物を観察しました。

午後は雪入川周辺の道跡について、岩波さんから資料を用いての話がありました。

関戸瓦窯址・いぼを治す神様が宿る伊保田神社・上稲吉地区の防災井戸について研修しました。



イズセンリョウ (ヤブコウジ科)



オオカナワラビ (オシダ科)



霞ヶ浦の水を支える清流雪入川



地域防災の拠点としての役割